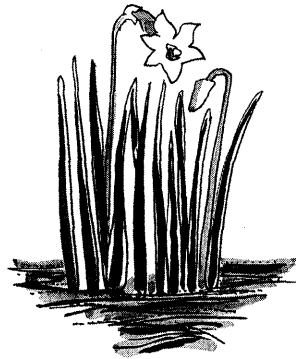


二歳児保育の部屋から

守永 英子



夏休みが過ぎて、また、新しい二歳児のグループが始まった。二歳二か月から十か月にわたる幼児十五人のグループである。

初日、最初に現れたA子は、部屋の入口に立ち止まると、部屋の中をちょっと見まわし、先ず入口近くの、すべり台に行つて、すべつてみた。それから、その奥の、机のどこ

ろに行き、机の上に置かれていたピクチャーパズルを何個かはめると、視線をすぐに、ままごとコーナーに移し、そちらに移動していった。

それを見ていた母親は、「この子は、あきっぽくて」と苦笑したが、私には、そうばかりとは、感じられなかった、初めて来た場

所で、周囲のものに興味をもち、触ったり、試みたりしようとすることは、極めて自然なことと思われた。A子は、母親のところに戻ることなく、かなり自由に、動けたようであった。

母親から離れられない子どもが少なくないと思われたこのグループの中で、S夫だけは、終始母に抱かれ、抱かれながら「パパ、パパ」と泣いていた。声をかけると、一層声を張りあげるので、働きかける手掛りもつかみにくのまま、せめて少しでも気が紛れないかしらと、トンカチの玩具（五センチほどの棒を穴に入れ、トンカチで叩くと、下の穴から棒がとび出す）を、母親のそばに、持っていてあげる。その時は泣きやんで、母親がするのを見ていたようであったが、そのあと、直ぐに抱き上げて、なだめている母親

の姿が目についたから、ほとんど、ずっと泣いていたと思われる。ちなみに、S夫は、一歳何か月かで、すでに、幼児教室を経験し、しかも、二歳の初め頃までに、二か所も経験しているという。このいたいけな子どもが、そこで、一体、何を体験したのであろうか。

このグループは、週に一回、顔を合わせるのであるが、四回目ともなると、子ども同士の触れ合いが増え、又同時に衝突も増えてくる。しかし大人が加わって、媒介となると、二、三人が一緒に遊ぶこともできる。積み木の階段を跳びおりて遊んでいるところへ、現れた子どもたちが、「切符」と言うので、言われるままに、渡す仕ぐさをする、受けとる仕ぐさで応える。あとで他の大人に聞くと、遊園地に行く遊びだったようである。かなり、ものを何かに「見立て」その「つも

り」になって遊べるようである。S子が、私に、ままごとのごちそうをしてくれたときもおもしろかった。私が器を手にする時、「熱い?」と聞き、「熱い」と言うと、受けとって、水道の蛇口をひねるような手つきをして、何か入れる様子をするのである。S子が「熱い」と言うとき、母親が水道の水でうめてくれるのだろうか。

五回目になると、子どもたちの動きは、一層激しくなり、トラブルも多く、二時間足らずの保育で、大人は、くたくたに疲れた。「私たちのかわり方に何か問題があるのだろうか」という反省もあったが、幼稚園の生活の中にも、子どもが慣れてきた頃大変な時期があったのを思い出す。そして、子どもが、ありのままの自分を出すようにならないければ、核心に触れる教育が実らないと思っ

いた。そうしてみると、この一見マイナスともみえる賑々しい変化は、プラスの変化とみていいであろうか。心のうちに反芻してみる。

六回目、M子が母親のそばにくっついてい。あまり目立たない子どもで、私とは、触れ合いの少ない子どもであったが、おやつるときも食べようとせず母親のところにいるので声をかけてみる。M子が、「ママも一緒に」と言うので、母親も一緒におやつるところにきたが、母親に促されても、M子は、まだ、ぐずぐずと母親にもたれている。展開のなさに「じゃあ、ママに食べさせてもらったら?」と声をかけてみる。「食べさせてもらいたいの?」と母親がM子に尋ねるとM子はうなずき、食べさせてもらおうと、さっさと食べて、ままごとコーナーへ行き、ひとりで落

ちついて遊んでいた。

「子どもの気持ちを満たしてあげる方が、少ないエネルギーで解決するでしょ」と言う私に、母親は頭をかしげ、「昨日から一日中べったりくっついていて、夕食の支度にも立ってない程だったんですよ。いらいらして怒ってしまいました」と言う。M子の「今日は、「昨日」を引きずっているようだ。

母親は、又、思い出したように言葉を続けた。「一昨日は、人ごみに出かけたので、ずっと抱いていたものですから、その方が楽だと思ったのでしょうか」

保育中のことでもあり、ゆっくりと話を聞くことはできなかったが、M子は、母親に抱かれることの快さを再現しようとして、前日

のようにいかない母親との関係に、戸惑い、固執したのであろうか。そのこだわりが、母親を苛立たせ、その結果、M子は拒まれ、それが、今日のM子の状態を生み出したのであろうか。

今日のM子は、母親と一緒にいて、M子の求めに応じて、おやつを食べさせてくれたことで、母親の愛情を確認でき、エネルギーが満ちてきて、落ちついた静かな遊びに入れたのではなからうか。

安心感、子どもを前向きにしてくれるし、愛情は、子どもの中で、エネルギーに変わる。いや、これは、子どもだけのことではないのかもしれないと思う。

(元・お茶の水女子大学附属幼稚園)